

AIRA PRESS

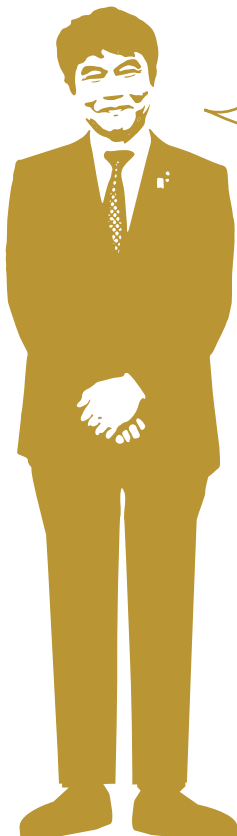
今回の
トピックス

1. 日本遺産の速報発表予定
2. 「はだか麦」栽培面積県内一位
3. 乗車初心者に寄り添う「時刻表」発行

5
2019 (R1)

MONTHLY FEATURE みどころイベント

ユネスコ プロジェクト未来遺産2018登録記念 くも合戦大会

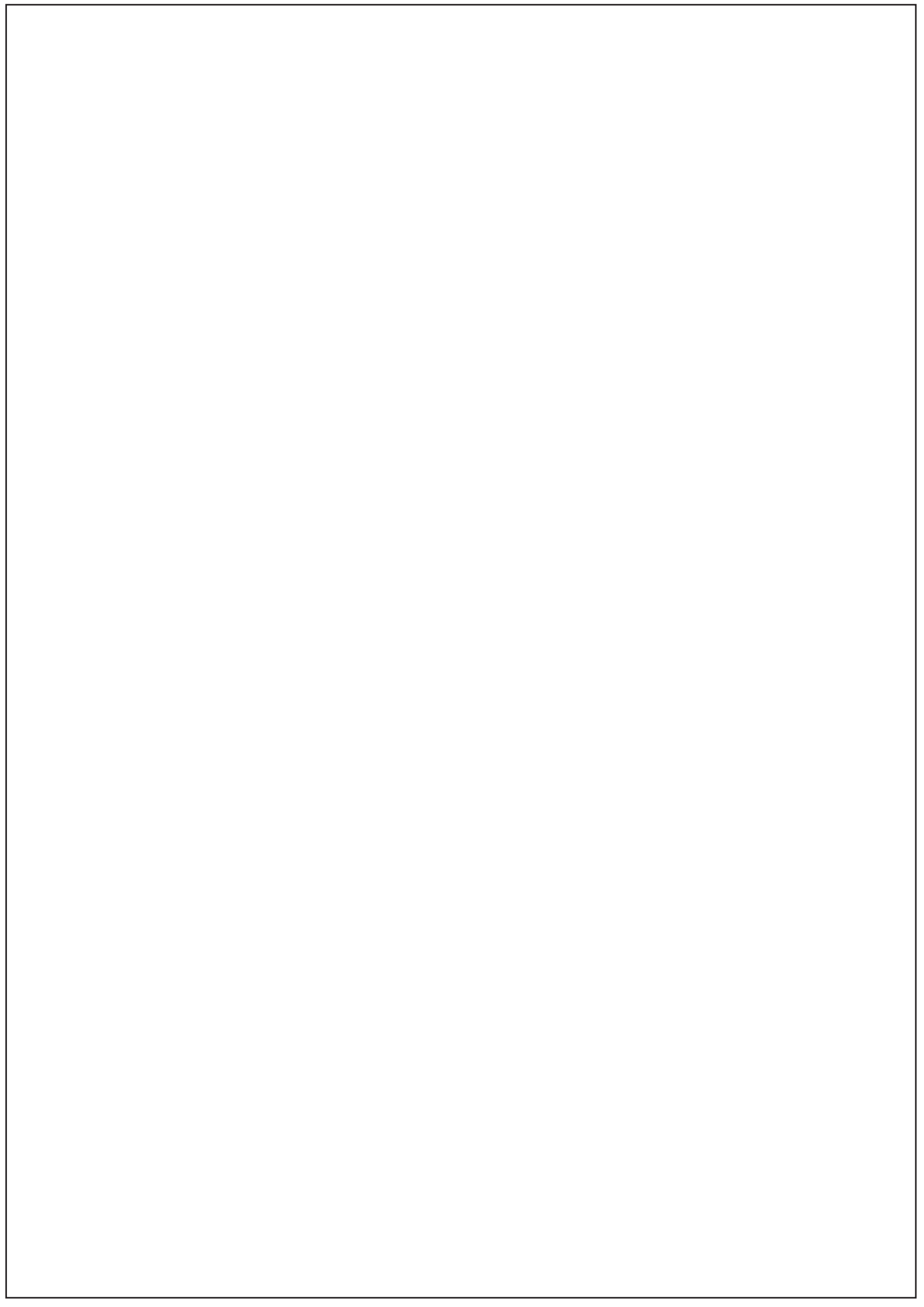


いつも始良市の報道ありがとうございます。
本市5月の風物詩「はだか麦」の
ゴールデンフィールドが見納めの時期です。



日時 令和元年5月20日(月)午前10時~
場所 始良市役所本館2階 市長室

次回は、6月14日(金)午後1時30分~ 大会議室 ※夜は懇談会を開催いたします。



令和最初の日本遺産に認定 始良市では蒲生の麓など9つ

報道解禁
5/20(月)正午
※別紙資料あり

薩摩の武士が生きた町 ～武家屋敷群「麓」を歩く～



日本遺産は来年の東京五輪に合わせ、インバウンドの受け皿として文化庁が観光庁などと連携して平成27年度から認定しています。

今回全国から申請のあった72件中、16件が新たに認定さら、そのひとつに鹿児島県（1県9市）で構成するストーリーも選ばれました。

日本遺産の認定対象は文化財（物体）そのものではなく、歴史的背景や風土に根差した世代を超えて伝承されている「ストーリー」が対象となっています。このストーリーの中核は地域の魅力を発信する明確なテーマのもと、建造物や遺跡、名勝地、祭りなどが景勝・保存されているもの（ストーリーを語る上で不可欠な文化財群）としています。単に地域の歴史・文化の価値を解説するだけのものになっていないことも認定基準となっています。

認定を受けた鹿児島県のストーリーは（タイトル）は「薩摩の武士が生きた町 ～武家屋敷群「麓」を歩く～」。始良市にある9つの文化財など（蒲生麓、蒲生城跡、蒲生御仮屋門、御仮屋犬槇、蒲生八幡神社、蒲生のクス、太鼓踊り、蒲生の紙漉き、掛橋坂）もこのストーリーに含まれています。そのほか1県9市共通のものとして芋焼酎とさつま揚げも入っています。

今後、県の構成自治体（協議会発足済み）で、観光などにつなぐ事業活動も展開していく予定です。詳細は別冊のとおりです。

鹿児島県構成自治体（1県9市）

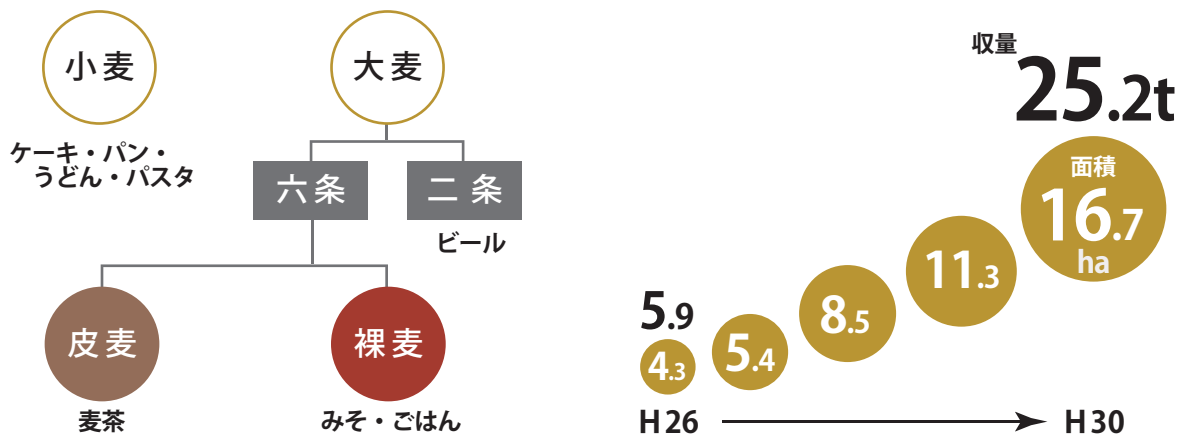
鹿児島県、鹿児島市、出水市、垂水市、薩摩川内市、いちき串木野市、南さつま市、志布志市、南九州市、始良市

担当窓口

企画部次長兼商工観光課長 原田 ☎66-3145

青と黄金のコントラスト、もうすぐ見納め 学校給食など、活路広がる「はだか麦」

年々作付けエリア拡大、栽培面積は県内一位



裸麦が5月中旬から本格的な収穫時期を迎えています。裸麦の生産は高度経済成長期以降、本市も衰退していましたが、個人や加工グループなどから裸麦を原料とした昔ながらの味噌づくりがしたいと農家に生産要望がありました。これを受けて平成21年に生産を開始し、平成27年には有志農家でつくる組合「あい裸麦生産組合」が結成されています。

年々栽培面積は拡大し、平成30年産は16.7ha（約5万500坪）。5年前の約4倍となり、栽培面積は県内1位。生産量も約5倍（25.2t）に増加。生産農家は団体も含めて現在12人。栽培地は市内約10か所の水田を活用しています。

収穫された麦のうち精麦の販売量は4～5t、味噌を製造する市内4加工団体への販売量が同じく4～5t、そのほか学校でレシピ化され、昨年度は468kgが給食用食材として活用されました。粉末にしたものは粒子が細かくバターなどによく馴染み、特にシチューなどに最適。大量に調理する給食向きで、ダメになりづらいことから加工グループではガネ天の小麦粉の代わりに使用中。

市では水田の効果的な利用の促進と米よりも高収入益に農作物を振興するため、裸麦づくりの推奨・助成（水田活用の直接支払交付金）をしています。現在生産者を含む関係者と新たな特産品や販売ルート開拓を進めています。



5月から県商工会連合会アンテナショップかごしま特産品市場「かご市」（鹿児島市東千石町15-21）でインキュベーションショップ・チャレンジ商品として販売中の「あいらのはだか麦ぼうろ」。

担当窓口

農政課 農政係／蒲生総合支所別館1階 徳重・池 ^{いけ} ☎52-1211(内線 222)

市町村別麦作付け面積（平成29年産） ha

自治体	小麦	二条大麦	裸麦	計
鹿児島市	2			2
鹿屋市	3			3
出水市		25		25
指宿市		9	1	10
垂水市	1			1
薩摩川内市	2	2		4
日置市	1	22		23
曾於市	1			1
霧島市	4			4
南さつま市		92		92
志布志市			1	1
南九州市	4	2		6
伊佐市	5			5
始良市	1		12	13
さつま町	9			9
大崎町	1			1
計	34	152	14	200

※県農産園芸課調べ



始良市では昨年から品種を一種類にしぼり、効率的な栽培をしている。品種は粒が大きい「トヨノカゼ」。

本市の裸麦栽培取組農家（令和元年産）

年代	取組農家数(人・団体)
20代	1
30代	2
40代	1
50代	
60代	3
70代～	5
計	12

※市農政課調べ

学校給食でレシピ化された裸麦メニュー

裸麦入りツナピラフ	建昌小学校
麦入りミートスパゲティ	帖佐中学校
あいらのむぎポタージュ	始良小学校
裸麦入り沢煮椀	山田小学校
始良市産裸麦のトマトスープ	加治木地区
裸麦と大豆のトマト煮	加治木地区
実だくさんスープ（裸麦入り）	重富小学校
裸麦入りミネストローネ	重富中学校
あいらの裸麦ふりかけ	始良小学校
あいらの麦とたかなの炒めもの	始良小学校
あいら裸麦のドライカレー	始良小学校
裸麦入り豚みそ	蒲生地区
ひじきときくらげの佃煮	山田小学校
裸麦入りカツオみそ	建昌小学校
鉄火みそ	帖佐中学校



食物繊維や鉄分が豊富。食物繊維含有量（100g）はゴボウの約6gに対して約10g。食感はプチプチとして噛み応えがある。給食を通じて子どもたちも地産地消を学ぶ。

裸麦「粉」メニュー

がね
豆乳のクリームスープ
始良の冬野菜シチュー



レシピ情報

市内を走るバスの路線図・時刻を一冊に。 乗車初心者に寄り添うガイドブック発行

路線図・時刻のほか、乗車方法も掲載——。

市内を運行するコミュニティバスと路線バスすべてのルートや時刻を集約した情報冊子「始良市公共交通時刻表」を発行しました。自治体がつくる時刻表は比較的珍しく、県内では南さつま市や南九州市など数自治体のみ（担当者調べ）。

特徴として、巻頭にバスに初めて乗る市民向けに乗り方を掲載。以前から路線の確認や利用方法の問い合わせが担当課に寄せられていたこともあり、そのニーズに応えたものです。また、日ごろ利用する路線や時刻を書き記しておく「おでかけメモのススメ」も掲載。備忘録として活用できます。

昨今、高齢ドライバーによる交通事故も多発していることから、本人やその家族が免許返納の意識が高まる傾向にあります。交通手段として今後バスを利用する予定の市民から最寄りのバス停情

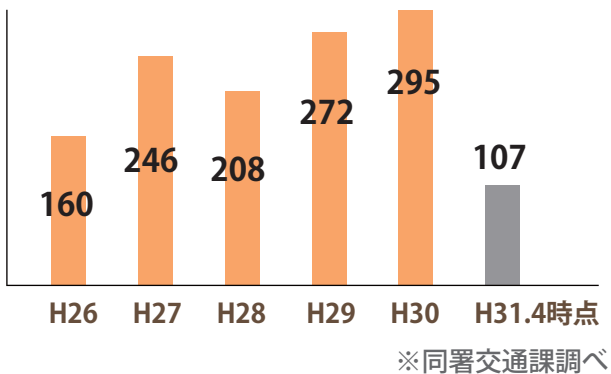
報を知りたいとの問い合わせも受けています。

この時刻表によって、バス利用の利便性と乗り継ぎの円滑化を期待しています。6月1日の文書発送日に各戸配布し、市内主要公共施設をはじめ、大型商業施設や病院などでも配布する予定。



公共交通マップ（路線図）や時刻表をまとめた総合時刻表が完成。

始良警察署受理の免許返納数



財源の話

財源は国の通称「サバイバル補助金【地域公共交通確保維持改善事業費補助金（地域公共交通調査事業／計画推進事業）】」を活用。始良市地域公共交通網形成計画に基づき、市や地域代表者をはじめ、県、国、警察、公共交通関係者などで構成する始良市地域公共交通会議が主体となり製作しました。

担当窓口

地域政策課 地域政策係 指宿・馬場 ☎66-3121

ユネスコ未来遺産2018 登録記念のくも合戦。

6月16日(日)

午前8時30分開会

加治木町福祉センター
(加治木町本町393)

主催 始良市加治木町
くも合戦保存会

島津義弘公顕彰 400年とあわせ、後世に伝承

始良市にゆかりの深い島津義弘公が文禄・慶長の役の陣中で兵士の士気を高めるためにコガネグモを戦わせたのが始まりと言われている「くも合戦」。

400年以上続く伝統行事で、平成8年には国の無形民俗文化財に選択。現在平成3年に設立された加治木町くも合戦保存会の主催で例年6月の第3日曜日に大会が開催され、全国唯一の催しとなっています。

大会では、くもの色・艶、姿形の美しさを競う「優良ぐもの部」、棒上でくもを戦わせ強さを競う「合戦の部」、さらに「合

戦の部」で3勝したくもが競う「王将戦の部」が行われます。合戦の勝負は棒から落とす、かみつくなど4つの決まり手があり、ときに数秒で決着するため、行司や参加者はもちろん観客も手に汗握って勝敗を見守ります。

昨年、平成30年12月14日には公益社団法人日本ユネスコ協会連盟が、この先100年後の子どもたちに日本各地に存在する美しい自然や文化を守り伝えていくため、次世代への継承に取り組む「プロジェクト未来遺産2018」として認定しました。

もうひとつのくも合戦。子どもたちもくも採集、大会後は生息地に戻す

保存会では合戦の継承の一環として子どもたちを対象に合戦の勉強会を開きます。子どもたちもくもを採集し、習性や合戦ルールを学びます。合戦翌日には子どもたちが進行を務める「もうひとつのくも合戦」を地元小学校で開催。合戦後は、くもが傷つかないように元の生息地に帰します。

ここ30年でくもの数も減り、現在では優秀なコガネグモを探すため、南薩(薩摩半島の南部)や大隅半島まで足を運び採集しま

す。温暖化や農薬、開発などさまざまな要因が考えられますが、地元で採集できる数は激減。自然や生態系の構造、環境問題まで及ぶ知識をこの伝統行事から学ぶことにもつながっています。

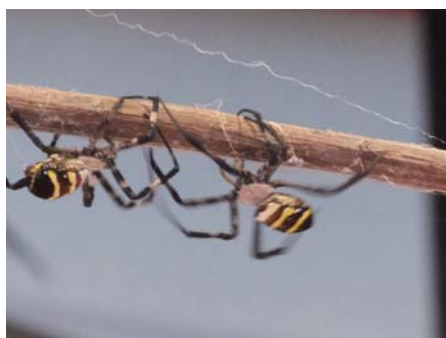
このような環境保全活動も評価のひとつとして未来遺産に登録にされました。

担当窓口

加治木地域振興課 地域振興係長 福留・軸屋 ☎62-2111 内線 263



くも同士の熱い戦いにフォーカスする観客たち



くもを生息地に生還させるための配慮や環境保全活動もこのくも合戦の特徴となっている。



地元3小学校で開催される「もうひとつのくも合戦」。くもの採集から合戦運営まで一貫して伝統行事を学ぶ。

そのほかのイベント①

第18回龍門司焼次郎太窯窯元祭り

6/9(日)まで

主催 龍門司焼次郎太窯

6月7日(金)

9:00~18:00

場所 龍門司焼次郎太窯

県指定無形文化財の龍門司焼三彩技術保持者・故川原軍次氏の伝統工芸品の展示・特価販売。期間中は購入者に粗品を進呈。ろくろ体験(有料)もできます。



お問合せ

龍門司焼次郎太窯(加治木町小山田 6096-2) ☎63-4267

そのほかのイベント②

思川あじさい祭り スマイルウォーキング大会

主催 思川水系美化・浄化対策委員会

6月9日(日)

9:00~正午ごろ

場所 重富中学校出発

例年この時期になると色鮮やかな紫陽花が咲き誇ります。思川沿いのほとりにある2400本のアジサイと100匹の鯉のぼりをめざして思川周辺コース(6.6km)を歩きます。受付は午前8時から ※少雨決行。参加無料。駐車場:重富中学校体育館前。



お問合せ

事務局:和田 ☎090-3609-6154